



高層団地に囲まれた秋の陽(あきのひ)公園の水田で 約350名の小学生が田植えを体験!

と き 5月16日(火) 午前9時30分~14時30分

と ころ 区立秋の陽(あきのひ)公園(光が丘2-5-2)

16日、区立秋の陽公園の水田(約500㎡)で、近隣の区立小学校5校の5年生児童約350名が、田植えを体験した。

都会では比較的珍しい田植え体験を児童達が楽しむとともに、お米の大切さを知ってもらうために行っているもので、開園(昭和63年)以来、毎年実施しており、今年で30回目を迎えた。

児童は、区職員から田植えの方法や、稲の成長過程について説明を受けた後、裸足で水田に入り、田植えを行った。

児童は「今日植えた苗が育って、収穫祭でお餅を作るのが楽しみ!」「苗の持ち方が難しかったけど、丁寧に教えてもらったので上手に植えられた」

「これからお米を食べるときは、今日の田植えを思い出そう。お米を作るのが大変と分かったので、これからは食べ残さないようにしたい」と話してくれた。

水田を管理する東部公園出張所は、「児童に田植えを体験してもらうことで、毎日のように食べているお米のありがたみを感じてもらいたい」と話した。今回、植えた苗は10月ごろに刈り入れ、約120キロ(例年)のもち米となり、各学校で餅つきや給食で味わう予定。



▲笑顔で田植えを楽しむ児童

【当日の様子】

見事に晴れ渡った青空の下、カエルの大合唱に迎えられ、元気いっぱいの児童たちが水田の前に集合した。

まず、区職員が水田に入り、苗の持ち方から植え方まで田植えの手順を説明。説明後、水田に入った児童が一人10株の苗を慣れない手つきで植え付けた。



▲真剣な面持ちで説明を聞く児童たち

【今後の予定】

今後は、東部公園出張所が水田を管理する。苗は順調に生育すると9月下旬から10月初旬に稲刈りの時期を迎え、約120キロのもち米として収穫する予定。収穫後は、学校で餅つき大会や給食の材料に使用する。

【参考1】区立秋の陽公園について(約18,200㎡)

昭和初期の豊かな水田の広がる生活風景をイメージして作られ、「田んぼのある公園」として親しまれている。あぜ道で6面に分けている約500㎡の水田や、農家の長屋門を模した正面入口などが特徴。苗の種類は「若草もち」という種類のもち米。



▲苗の位置を気にしながら丁寧に植えていく

【参加2】児童数について

光が丘春の風小76名、光が丘夏の雲小92名、光が丘秋の陽小65名、光が丘四季の香小63名、光が丘第八小42名の5校合わせて338名の児童が田植えを体験した。

【問い合わせ】東部公園出張所 電話03-3994-8141